

## 第164回定時株主総会資料

( 電子提供措置事項のうち法令及び定款に基づく  
書面交付請求による交付書面に記載しない事項 )

1. 連結計算書類の連結株主資本等変動計算書及び連結注記表
2. 計算書類の株主資本等変動計算書及び個別注記表

第164期

(2025年4月1日から2026年3月31日まで)

## 美濃窯業株式会社

上記事項につきましては、法令及び当社定款第17条の規定に基づき、書面交付請求をいただいた株主様に対して交付する書面には記載しておりません。

なお、本株主総会におきましては、書面交付請求の有無にかかわらず、株主の皆様にご電子提供措置事項から上記事項を除いたものを記載した書面を一律でお送りいたします。

# 連結株主資本等変動計算書

(2025年4月1日から2026年3月31日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本				
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	自 己 株 式	株主資本合計
当連結会計年度期首残高	877,000	1,047,029	12,354,457	△503,791	13,774,694
連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当			△425,444		△425,444
親会社株主に帰属する 当期純利益			1,250,607		1,250,607
株式給付信託による 自己株式の処分				2,114	2,114
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)					
連結会計年度中の変動額合計	—	—	825,162	2,114	827,276
当連結会計年度末残高	877,000	1,047,029	13,179,620	△501,677	14,601,971

	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	その他の包括利 益累計額合計	
当連結会計年度期首残高	732,812	81	732,894	14,507,589
連結会計年度中の変動額				
剰余金の配当				△425,444
親会社株主に帰属する 当期純利益				1,250,607
株式給付信託による 自己株式の処分				2,114
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)	436,990	△417	436,573	436,573
連結会計年度中の変動額合計	436,990	△417	436,573	1,263,850
当連結会計年度末残高	1,169,803	△335	1,169,467	15,771,439

## 連結注記表

### (連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等)

#### 1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数及び連結子会社の名称

連結子会社の数 2社

連結子会社の名称

美州興産株式会社、岩佐機械工業株式会社

#### 2. 連結子会社の事業年度等に関する事項

すべての連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

#### 3. 会計方針に関する事項

##### (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

###### ①有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

市場価格のない ……時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は株式等以外のもの 移動平均法により算定）を採用しております。

市場価格のない ……主として移動平均法による原価法を採用しております。

株式等

###### ②デリバティブの評価基準及び評価方法

時価法

###### ③棚卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

##### 1. 商品、製品、

仕掛品、原材料、

貯蔵品 ……移動平均法

##### 2. 未成工事支出金 ……個別法

##### (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産

###### ①リース資産以外 ……定率法

の有形固定資産

なお、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

###### ②リース資産 ……リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとして算定する定額法によっております。

所有権移転外ファ

イナンス・リース

取引に係るリース

資産

無形固定資産 ……定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。

### (3) 引当金の計上基準

- 貸倒引当金……債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
- 賞与引当金……従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額を計上しております。
- 製品保証引当金……プラント工事及び耐火物施工工事等の売上に係るアフターサービス費用の支出に備えるため、経験率を加味した将来発生見込額を計上しております。
- 工事損失引当金……当連結会計年度末の手持工事のうち損失の発生が見込まれるものについて、将来の損失に備えるため、その損失見込額を計上しております。
- 株式給付引当金……株式給付規程に基づく従業員の当社株式の給付に備えるため、当連結会計年度末における株式給付債務の見込額に基づき計上しております。
- 役員株式給付引当金……役員株式給付規程に基づく役員の当社株式の給付に備えるため、当連結会計年度末における役員株式給付債務の見込額に基づき計上しております。
- 役員退職慰労引当金……役員の退職慰労金の支出に備えるため、役員退職慰労金内規に基づく当連結会計年度末における要支給額を計上しております。

### (4) 重要な収益及び費用の計上基準

当社グループは、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識しております。

主要な報告セグメントにおける固有の状況につきましては、以下のとおりであります。

#### 耐火物セラミックス事業・建材及び舗装用材事業

顧客との販売契約等に基づいて耐火物を製造の上、顧客に引き渡す履行義務を負っております。当該履行義務に係る収益を認識する通常の時点は「収益認識に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第30号 2021年3月26日）第98項に定める代替的な取扱いを適用し、製品の販売において出荷時から当該製品の支配が顧客に移転される時点までの期間が通常の期間である場合には出荷時に収益を認識しております。

#### プラント事業・建材及び舗装用材事業

顧客との工事契約等に基づいて設計・施工の上、顧客に引き渡す履行義務を負っております。当該履行義務については原則として一定の期間にわたり充足される履行義務として認識し、履行義務の充足に係る進捗度を見積り、当該進捗度に基づき収益を一定の期間にわたり認識しております。また、履行義務の充足に係る進捗度の見積りの方法は、主として見積総原価に対する発生原価の割合（インプット法）にて算出しております。

なお、期間がごく短い工事契約については代替的な取扱いを適用し、一定の期間にわたり収益を認識せず、工事完了時に収益を認識することとしております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(6) その他連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項

① 退職給付に係る会計処理の方法

当社及び連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

② 重要なヘッジ会計の方法

イ ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジによっております。

ロ ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段……………為替予約

ヘッジ対象……………買掛金

ハ ヘッジ方針

実需の範囲内で、輸入取引に係る為替変動リスクを回避するため、ヘッジ取引を行っております。

ニ ヘッジの有効性の評価

将来に予定している輸入取引に基づくものであり、実行の可能性が極めて高いため有効性の判定を省略しております。

③ のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、投資効果の発現する期間を合理的に見積り、当該期間（5年）において均等償却しております。

④ 消費税等の会計処理

固定資産に係る控除対象外消費税等は、投資その他の資産の「その他」に計上し、5年間で均等償却を行っております。

## (表示方法の変更に関する注記)

(連結損益計算書)

前連結会計年度まで区分掲記して表示しておりました「補助金収入」(当連結会計年度は、1,085千円)は、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より営業外収益の「その他」に含めて表示しております。

前連結会計年度まで区分掲記して表示しておりました「災害による損失」(当連結会計年度は、690千円)は、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より営業外費用の「その他」に含めて表示しております。

## (会計上の見積りに関する注記)

### 1. 工事契約に係る収益認識

#### ①当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

(単位：千円)

	当連結会計年度
一定の期間にわたり充足される 履行義務として計上した収益	122,634

#### ②識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

工事契約については原則として一定の期間にわたり充足される履行義務として認識し、履行義務の充足度に係る進捗度を見積り、当該進捗度に基づき収益を一定の期間にわたり認識しております。また、履行義務の充足度に係る進捗度の見積りの方法は、主として工事原価総額の見積りに対する工事原価の割合(インプット法)で算出しております。

この工事原価総額は、過去に施工した工事の予算及び実績を基礎とした費目毎の見積単価と見積数量を主要な仮定として、個々の案件に特有の事象を織り込んだ実行予算として見積もっております。また、進捗度の見積りに重要な影響を与える実際工事原価の集計については、月次での管理部門によるモニタリングを実施しております。

しかしながら、当連結会計年度末では予見できなかった材料費及び外注費等の高騰や、予期せぬ工事内容の変更等に起因する工期の延長や追加コストの発生などの不測の事態により、工事原価総額の見積りや決算日における進捗度の見積りに変動が生じる場合、翌連結会計年度の損益に重要な影響を与える可能性があります。

### 2. 固定資産の減損

#### ①当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

	当連結会計年度
有形固定資産及び無形固定資産	5,649,710千円
減損損失	163,824千円

#### ②識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

当社グループでは、事業用資産については管理会計上の区分を基礎として資産のグルーピングをしております。また、遊休資産については個別資産ごとにグルーピングをしております。

減損の兆候の判定は、資産又は資産グループを使用した営業活動から生じた損益や、経営環境及び市場価格の状況など、当社が利用可能な情報に基づいて判定を行っております。減損の兆候がある場合には、資産又は資産グループから得られる割引前将来キャッシュ・フロ

一を算定し、帳簿価額を下回る場合には減損損失を認識すべきと判断しております。

当連結会計年度において減損損失を認識すべきであると判断された有形固定資産及び無形固定資産については、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。なお、回収可能価額は使用価値又は正味売却価額のいずれか高い方の金額により測定しております。

割引前将来キャッシュ・フロー算定の基礎となる事業計画における主要な仮定は、市場の成長率とこれに伴う将来の販売数量であります。また、正味売却価額については、外部の専門家である不動産鑑定士による鑑定評価額に基づいて算定しており、鑑定評価額の算定における主要な仮定は、土地の市場価格であります。

減損の兆候の把握、減損損失の認識及び測定にあたっては、外部の情報等を含む入手可能な情報に基づき慎重に検討しておりますが、見積り額的前提として経営環境に変化が生じ、結果として将来キャッシュ・フローが減少した場合には、翌連結会計年度の減損損失に影響を与える可能性があります。

## (追加情報)

### (業績連動型株式報酬制度)

当社グループは、取締役（監査等委員である取締役及びそれ以外の取締役のうち社外取締役である者を除く。）及び執行役員（以下、「当社グループの取締役及び執行役員」を合わせて「対象役員」という。）の報酬と当社の業績及び株式価値との連動性をより明確にし、対象役員が株価上昇によるメリットのみならず、株価下落リスクまでも株主の皆様と共有することで、中長期的な業績の向上と役員の使命である「中長期を見据えた戦略の遂行」に対する動機付けをさらに高めることを目的として、2019年6月27日開催の第157回定時株主総会決議により業績連動型株式報酬制度「役員株式給付信託（BBT（=Board Benefit Trust））」制度（以下、「本制度」という。）を導入しております。

当該信託契約に係る会計処理については、「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第30号 2015年3月26日）に準じております。

#### (1)取引の概要

本制度は、当社が拠出する金銭を原資として当社株式が信託（以下、本制度に基づき設定される信託を「本信託」という。）を通じて取得され、対象役員に対して、当社及び当社の子会社が定める役員株式給付規程に従って、当社株式及び当社株式を時価で換算した金額相当の金銭が本信託を通じて給付される業績連動型株式報酬制度であります。

なお、対象役員が当社株式等の給付を受ける時期は、原則として対象役員の退任時になります。

#### (2)信託が保有する自社の株式に関する事項

信託が保有する当社株式の信託における期末帳簿価額は56,276千円で、株主資本において自己株式として計上しております。

また、当該株式の期末株式数は127,900株、期中平均株式数は128,660株であり、1株当たり情報の算出上、控除する自己株式に含めております。

### (従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引)

当社グループは、当社の株価や業績と従業員の処遇の連動性をより高め、業績向上への意欲を高めるため、従業員（当社子会社の従業員を含む。以下同じ。）に対して自社の株式を給付する「従業員株式給付信託（J-E SOP）」制度（以下、「本制度」という。）を導入しております。

#### (1)取引の概要

本制度は、予め当社が定めた株式給付規程に基づき、一定の要件を満たした従業員に対して当社株式を給付する仕組みであります。従業員に対して給付する株式については、予め設定した信託（以下、「本信託」という。）により将来分も含めて取得し、信託財産として分別管理しております。

#### (2)信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する会計処理

「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第30号 2015年3月26日）を適用し、本制度に関する会計処理としては、本信託の資産及び負債を当社グループの資産及び負債として連結貸借対照表上に計上する総額法を採用し、本信託が保有する当社株式を連結貸借対照表の純資産の部において、自己株式として表示しております。

#### (3)信託が保有する自社の株式に関する事項

信託が保有する当社株式の信託における期末帳簿価額は69,835千円で、株主資本において自己株式として計上しております。

また、当該株式の期末株式数は245,900株、期中平均株式数は248,401株であり、1株当たり情報の算出上、控除する自己株式に含めております。

## (連結貸借対照表に関する注記)

### 1. 棚卸資産の内訳

商品及び製品	1,345,350千円
仕掛品	252,600千円
未成工事支出金	286,367千円
原材料及び貯蔵品	1,117,167千円

### 2. 有形固定資産の減価償却累計額

8,769,017千円

## (連結損益計算書に関する注記)

### 顧客との契約から生じる収益

売上高については、顧客との契約から生じる収益及びそれ以外の収益を区分して記載しておりません。顧客との契約から生じる収益の金額は、「連結注記表」の（収益認識に関する注記）1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報に記載しております。

## (連結株主資本等変動計算書に関する注記)

### 1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首の株式数(株)	当連結会計年度増加株式数(株)	当連結会計年度減少株式数(株)	当連結会計年度末の株式数(株)
普通株式	12,909,828	—	—	12,909,828

### 2. 剰余金の配当に関する事項

#### (1) 当連結会計年度中に行った剰余金の配当に関する事項

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2025年5月15日 取締役会	普通株式	202,086千円	19.00円	2025年 3月31日	2025年 6月9日
2025年11月14日 取締役会	普通株式	223,358千円	21.00円	2025年 9月30日	2025年 12月5日

(注) 1. 2025年5月15日取締役会の決議による配当金の総額には、「役員株式給付信託(BBT)」制度及び「従業員株式給付信託(J-E SOP)」制度の信託財産として、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式に対する配当金7,223千円が含まれております。

2. 2025年11月14日取締役会の決議による配当金の総額には、「役員株式給付信託(BBT)」制度及び「従業員株式給付信託(J-E SOP)」制度の信託財産として、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式に対する配当金7,902千円が含まれております。

#### (2) 当連結会計年度の末日後に行う剰余金の配当に関する事項

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2026年5月15日 取締役会	普通株式	利益剰余金	223,358千円	21.00円	2026年 3月31日	2026年 6月9日

(注) 配当金の総額には、「役員株式給付信託(BBT)」制度及び「従業員株式給付信託(J-E SOP)」制度の信託財産として、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式に対する配当金7,849千円が含まれております。

## (金融商品に関する注記)

### 1. 金融商品の状況に関する事項

当社グループは、資金運用については預金等に限定し、金融機関からの借入や社債発行により資金を調達しております。

受取手形、電子記録債権、売掛金に係る顧客の信用リスクは、社内規程に沿ってリスク低減を図っております。また、投資有価証券は主として株式及び債券であり、四半期ごとに時価の把握を行っております。

支払手形及び買掛金、電子記録債務は、そのすべてが1年以内の支払期日であります。また、借入金及び社債の用途は運転資金であり、社債の償還日及び長期借入金の返済期限は最長で決算日後3年となっております。変動金利の社債は、金利の変動リスクに晒されております。

### 2. 金融商品の時価等に関する事項

2026年3月31日(当期の連結決算日)における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等は、次表には含めておりません。(注)をご参照ください。)また、現金は注記を省略しており、預金、受取手形、電子記録債権、売掛金、未収法人税等、未収消費税等、支払手形及び買掛金、電子記録債務、短期借入金、未払法人税等、未払消費税等は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

(単位：千円)

	連結貸借対照表 計上額(※1)	時価(※1)	差額
(1) 投資有価証券	3,284,782	3,284,782	—
(2) デリバティブ取引(※2)	(488)	(488)	—
(3) 社債(1年以内償還予定のものを 含む)	(230,000)	(226,134)	(△3,865)
(4) 長期借入金	(100,000)	(99,285)	(△714)

(※1) 負債に計上されているものについては、( )で示しております。

(※2) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、( )で示しております。

(注) 市場価格のない株式等

(単位：千円)

区分	連結貸借対照表計上額
非上場株式	50,116

### 3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：同一の資産又は負債の活発な市場における(無調整の)相場価格により算定した時価

レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価をもって連結貸借対照表計上額とする金融資産及び金融負債

(単位：千円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券				
株式、その他	2,891,882	—	—	2,891,882
債券	—	392,900	—	392,900
デリバティブ取引	—	(488)	—	(488)

(2) 時価をもって連結貸借対照表計上額としない金融資産及び金融負債

(単位：千円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
社債(1年以内償還予定のものを 含む)	—	(226,134)	—	(226,134)
長期借入金	—	(99,285)	—	(99,285)

(注)時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

投資有価証券

上場株式及び上場投資信託の時価は相場価格を用いて評価しております。上場株式及び上場投資信託は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。

一方で、当社が保有している債券は、市場での取引頻度が低く、活発な市場における相場価格とは認められないため、その時価をレベル2の時価に分類しております。

デリバティブ取引

為替予約の時価は、金利や為替レート等の観察可能なインプットを用いて割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

社債(1年以内償還予定のものを含む)、長期借入金

これらの時価は元利金の合計額と、当該債務の残存期間及び信用リスクを加味した利率を基に、割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

### (賃貸等不動産に関する注記)

1. 賃貸等不動産の状況に関する事項

当社では、愛知県その他の地域において、賃貸オフィスビルや賃貸住宅等（土地を含む）を所有しております。

2. 賃貸等不動産の時価に関する事項

(単位：千円)

連結貸借対照表計上額	時価
3,126,321	7,619,974

(注)1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。

2. 時価の算定方法

主として、「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額（指標等を用いて調整を行ったものを含む。）であります。

### (1株当たり情報に関する注記)

1. 1株当たり純資産額

1,536円83銭

2. 1株当たり当期純利益

121円90銭

(注) 1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数及び1株当たり当期純利益の算定上の基礎となる普通株式の期中平均株式数については、「役員株式給付信託（BBT）」制度及び「従業員株式給付信託（J-E SOP）」制度の信託財産として、株式会社日本カストディ銀行（信託E口）が保有する当社株式を控除対象の自己株式に含めて算定しております。

### (重要な後発事象に関する注記)

該当事項はありません。

## (収益認識に関する注記)

### 1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社グループの報告セグメント別に分解した収益の情報は、以下のとおりであります。

(単位：千円)

	報告セグメント					その他	合計
	耐火物 セラミッ クス	プラント	建材及び 舗装用材	不動産賃貸	計		
売上高							
一時点で移転される 財又はサービス	6,992,933	6,341,555	2,230,260	—	15,564,749	71,835	15,636,584
一定の期間にわたり 移転される財又はサ ービス	—	89,314	33,320	—	122,634	—	122,634
顧客との契約から 生じる収益	6,992,933	6,430,869	2,263,580	—	15,687,383	71,835	15,759,218
その他の収益	—	—	—	395,321	395,321	—	395,321
外部顧客への売上 高	6,992,933	6,430,869	2,263,580	395,321	16,082,705	71,835	16,154,540

(注) 当連結会計年度より、従来「耐火物」としていた報告セグメントの名称を「耐火物セラミックス」に変更しております。当該変更は名称変更のみであり、セグメント情報に与える影響はありません。

### 2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は、「連結注記表」の(連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等)3. 会計方針に関する事項(4)重要な収益及び費用の計上基準に記載のとおりであります。

### 3. 当連結会計年度及び翌連結会計年度以降の収益の金額を理解するための情報

#### (1) 契約資産及び契約負債の残高等

(単位：千円)

	当連結会計年度（期首） (2025年4月1日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
顧客との契約から生じた債権		
受取手形	117,394	24,122
電子記録債権	1,454,590	1,248,957
売掛金	3,515,314	3,633,099
契約資産	404,377	131,565
契約負債	286,001	198,573

(注) 当連結会計年度に認識した収益のうち、期首時点の契約負債に含まれていた額は278,052千円であります。

## (2) 残存履行義務に配分した取引価格

当社グループにおいては、個別の予想契約期間が1年を超える重要な取引がないため、実務上の便法を使用し、残存履行義務に関する情報の記載を省略しております。また、顧客との契約から生じる対価の中に取引価格に含まれていない重要な金額はありません。

## (その他の注記)

### 減損損失

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

#### (1) 減損損失を認識した資産グループの概要

用途	場所	種類	減損損失(千円)
耐火物セラミックス 事業用資産	当社瑞浪工場 (岐阜県瑞浪市)	建物及び構築物	51,405
		機械装置及び運搬具	110,369
		その他	2,049
合計			163,824

#### (2) 資産のグルーピングの方法

当社グループは、事業用資産については管理会計上の区分を基礎として資産のグルーピングをしており、遊休資産については個別資産ごとにグルーピングをしております。

#### (3) 減損損失の認識に至った経緯

当社瑞浪工場につきましては、営業活動から生ずる損益が継続してマイナスであり、投資額の回収が困難であると見込まれるため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

#### (4) 回収可能価額の算定方法

回収可能価額は正味売却価額により測定しており、正味売却価額については不動産鑑定評価額等を基に算定しております。

# 株主資本等変動計算書

(2025年4月1日から2026年3月31日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本		
	資 本 金	資 本 剰 余 金	
		資 本 準 備 金	そ の 他 資 本 剰 余 金
当 事 業 年 度 期 首 残 高	877,000	774,663	389,394
事 業 年 度 中 の 変 動 額			
剰 余 金 の 配 当			
当 期 純 利 益			
固 定 資 産 圧 縮 積 立 金 の 取 崩			
株 式 給 付 信 託 に よ る 自 己 株 式 の 処 分			
株 主 資 本 以 外 の 項 目 の 事 業 年 度 中 の 変 動 額 (純 額)			
事 業 年 度 中 の 変 動 額 合 計	—	—	—
当 事 業 年 度 末 残 高	877,000	774,663	389,394

	株 主 資 本								
	利 益 剰 余 金							自 己 株 式	株 主 資 本 合 計
	利 益 準 備 金	そ の 他 利 益 剰 余 金							
		特 別 積 立 金	退 職 給 与 積 立 金	配 当 準 備 積 立 金	研 究 開 発 積 立 金	固 定 資 産 圧 縮 積 立 金	繰 越 利 益 剰 余 金		
当 事 業 年 度 期 首 残 高	219,250	1,750,000	120,000	50,000	50,000	74,217	8,506,380	△501,873	12,309,033
事 業 年 度 中 の 変 動 額									
剰 余 金 の 配 当							△425,444		△425,444
当 期 純 利 益							1,149,152		1,149,152
固 定 資 産 圧 縮 積 立 金 の 取 崩						△8,840	8,840		—
株 式 給 付 信 託 に よ る 自 己 株 式 の 処 分								2,114	2,114
株 主 資 本 以 外 の 項 目 の 事 業 年 度 中 の 変 動 額 (純 額)									
事 業 年 度 中 の 変 動 額 合 計	—	—	—	—	—	△8,840	732,547	2,114	725,821
当 事 業 年 度 末 残 高	219,250	1,750,000	120,000	50,000	50,000	65,377	9,238,928	△499,759	13,034,854

(単位：千円)

	評 価 ・ 換 算 差 額 等		純 資 産 合 計
	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	
当 事 業 年 度 期 首 残 高	675,987	81	12,985,102
事 業 年 度 中 の 変 動 額			
剰 余 金 の 配 当			△425,444
当 期 純 利 益			1,149,152
固 定 資 産 圧 縮 積 立 金 の 取 崩			—
株 式 給 付 信 託 に よ る 自 己 株 式 の 処 分			2,114
株 主 資 本 以 外 の 項 目 の 事 業 年 度 中 の 変 動 額 (純 額)	407,108	△417	406,690
事 業 年 度 中 の 変 動 額 合 計	407,108	△417	1,132,512
当 事 業 年 度 末 残 高	1,083,095	△335	14,117,615

## 個別注記表

### (重要な会計方針に係る事項に関する注記)

#### 1. 資産の評価基準及び評価方法

##### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式 ……移動平均法による原価法

その他有価証券

市場価格のない ……時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は株式等以外のもの 移動平均法により算定）を採用しております。

市場価格のない ……主として移動平均法による原価法を採用しております。

株式等

##### (2) デリバティブの評価基準及び評価方法

時価法

##### (3) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

###### ①製品、仕掛品、

原材料、貯蔵品 ……移動平均法

###### ②未成工事支出金 ……個別法

#### 2. 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産

##### ①リース資産以外 ……定率法

の有形固定資産 なお、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

##### ②リース資産 ……リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとして算定する方法によっております。

所有権移転外ファ

イナンス・リース

取引に係るリース

資産

##### 無形固定資産 ……定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。

##### 長期前払費用 ……定額法

なお、償却期間については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

### 3. 引当金の計上基準

- 貸倒引当金……債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
- 賞与引当金……従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額を計上しております。
- 製品保証引当金……プラント工事及び耐火物施工工事等の売上に係るアフターサービス費用の支出に備えるため、経験率を加味した将来発生見込額を計上しております。
- 工事損失引当金……当事業年度末の手持工事のうち損失の発生が見込まれるものについて、将来の損失に備えるため、その損失見込額を計上しております。
- 株式給付引当金……株式給付規程に基づく従業員の当社株式の給付に備えるため、当事業年度末における株式給付債務の見込額に基づき計上しております。
- 役員株式給付引当金……役員株式給付規程に基づく役員の当社株式の給付に備えるため、当事業年度末における役員株式給付債務の見込額に基づき計上しております。
- 退職給付引当金……従業員の退職給付に備えるため、退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

### 4. 収益及び費用の計上基準

当社は、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識しております。

主要な報告セグメントにおける固有の状況につきましては、以下のとおりであります。

#### 耐火物セラミックス事業

顧客との販売契約等に基づいて耐火物を製造の上、顧客に引き渡す履行義務を負っております。当該履行義務に係る収益を認識する通常の時点は「収益認識に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第30号 2021年3月26日）第98項に定める代替的な取扱いを適用し、製品の販売において出荷時から当該製品の支配が顧客に移転される時点までの期間が通常の期間である場合には出荷時に収益を認識しております。

#### プラント事業

顧客との工事契約等に基づいて設計・施工の上、顧客に引き渡す履行義務を負っております。当該履行義務については原則として一定の期間にわたり充足される履行義務として認識し、履行義務の充足に係る進捗度を見積り、当該進捗度に基づき収益を一定の期間にわたり認識しております。また、履行義務の充足に係る進捗度の見積りの方法は、主として見積総原価に対する発生原価の割合（インプット法）にて算出しております。

なお、期間がごく短い工事契約については代替的な取扱いを適用し、一定の期間にわたり収益を認識せず、工事完了時に収益を認識することとしております。

#### 5. その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

##### ① 重要なヘッジ会計の方法

###### イ ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジによっております。

###### ロ ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段……………為替予約

ヘッジ対象……………買掛金

###### ハ ヘッジ方針

実需の範囲内で、輸入取引に係る為替変動リスクを回避するため、ヘッジ取引を行っております。

###### ニ ヘッジの有効性の評価

将来に予定している輸入取引に基づくものであり、実行の可能性が極めて高いため有効性の判定を省略しております。

##### ② 消費税等の会計処理

固定資産に係る控除対象外消費税等は、投資その他の資産の「その他」に計上し、5年間で均等償却を行っております。

### (表示方法の変更に関する注記)

#### (損益計算書)

前事業年度まで区分掲記して表示しておりました「補助金収入」(当事業年度は、1,085千円)は、金額的重要性が乏しくなったため、当事業年度より営業外収益の「その他」に含めて表示しております。

前事業年度まで区分掲記して表示しておりました「災害による損失」(当事業年度は、690千円)は、金額的重要性が乏しくなったため、当事業年度より営業外費用の「その他」に含めて表示しております。

### (会計上の見積りに関する注記)

#### 1. 工事契約に係る収益認識

##### ①財務諸表に計上した金額

(単位：千円)

	当事業年度
一定の期間にわたり充足される 履行義務として計上した収益	89,314

##### ②識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

工事契約に係る収益認識に関する注記については、「連結注記表」の(会計上の見積りに関する注記)1. 工事契約に係る収益認識に同一の内容を記載しておりますので、注記を省略しております。

## 2. 固定資産の減損

### ①当事業年度の計算書類に計上した金額

	当事業年度
有形固定資産及び無形固定資産	5,503,852千円
減損損失	163,824千円

### ②識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報は、「連結注記表」の（会計上の見積りに関する注記）2. 固定資産の減損に同一の内容を記載しておりますので、注記を省略しております。

## （追加情報）

（業績連動型株式報酬制度）

「連結注記表」の（追加情報）に同一の内容を記載しておりますので、注記を省略しております。

（従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引）

「連結注記表」の（追加情報）に同一の内容を記載しておりますので、注記を省略しております。

## （貸借対照表に関する注記）

1. 有形固定資産の減価償却累計額	8,227,691千円
2. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務	
関係会社に対する短期金銭債権	37,102千円
関係会社に対する短期金銭債務	1,575千円

## （損益計算書に関する注記）

関係会社との取引高

営業取引による取引高

    売上高 125,792千円

    仕入高 1,195千円

営業取引以外の取引による取引高

    受取利息 1,423千円

    支払利息 980千円

## (株主資本等変動計算書に関する注記)

自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首 の株式数(株)	当事業年度 増加株式数(株)	当事業年度 減少株式数(株)	当事業年度末 の株式数(株)
普通株式	2,653,904	—	6,400	2,647,504

1. 当事業年度末の株式数には、「役員株式給付信託(BBT)」制度及び「従業員株式給付信託(J-E SOP)」制度の信託財産として、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式373,800株が含まれております。
2. 当事業年度減少株式数の内訳は、以下のとおりであります。
 

「役員株式給付信託(BBT)」制度による 当社グループ役員への割当に伴う減少	1,900株
「従業員株式給付信託(J-E SOP)」制度による 当社グループ従業員への割当に伴う減少	4,500株

## (税効果会計に関する注記)

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳

### 繰延税金資産

減損損失	55,926千円
貸倒引当金	398千円
賞与引当金	105,996千円
工事損失引当金	112千円
製品保証引当金	13,654千円
退職給付引当金	229,661千円
長期未払金	81,200千円
資産除去債務	16,701千円
その他	157,542千円
繰延税金資産小計	661,194千円
評価性引当額	△178,561千円
繰延税金資産合計	482,632千円

### 繰延税金負債

その他有価証券評価差額金	△457,005千円
固定資産圧縮積立金	△29,869千円
その他	△16,997千円
繰延税金負債合計	△503,872千円
繰延税金負債の純額	△21,239千円

## (関連当事者との取引に関する注記)

子会社及び関連会社等

種類	名称又は氏名	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
子会社	美州興産(株)	所有 直接100%	原料の購入・建材及び舗装用材の販売 役員の兼任	資金借入(注) 利息支払(注)	— 980	長期借入金 —	200,000 —
子会社	岩佐機械工業(株)	所有 直接100%	プラント設備の購入・耐火物の販売 役員の兼任	資金貸付(注) 利息受取(注)	100,000 1,423	長期貸付金 —	270,000 —

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等

借入金及び貸付金の利率につきましては、市場金利を勘案して決定しております。

## (1株当たり情報に関する注記)

- 1株当たり純資産額 1,375円67銭
- 1株当たり当期純利益 112円01銭

(注) 1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数及び1株当たり当期純利益の算定上の基礎となる普通株式の期中平均株式数については、「役員株式給付信託(BBT)」制度及び「従業員株式給付信託(J-E SOP)」制度の信託財産として、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有している当社株式を控除対象の自己株式に含めて算定しております。

## (重要な後発事象に関する注記)

該当事項はありません。

## (収益認識に関する注記)

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報については、「連結注記表」の(収益認識に関する注記)に同一の内容を記載しておりますので、注記を省略しております。

## (その他の注記)

### 減損損失

当事業年度において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

#### (1) 減損損失を認識した資産グループの概要

用途	場所	種類	減損損失(千円)
耐火物セラミックス 事業用資産	当社瑞浪工場 (岐阜県瑞浪市)	建物	44,038
		構築物	7,366
		機械及び装置	110,369
		工具、器具及び備品	2,049
合計			163,824

#### (2) 資産のグルーピングの方法

当社は、事業用資産については管理会計上の区分を基礎として資産のグルーピングをしております、遊休資産については個別資産ごとにグルーピングをしております。

#### (3) 減損損失の認識に至った経緯

当社瑞浪工場につきましては、営業活動から生ずる損益が継続してマイナスであり、投資額の回収が困難であると見込まれるため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

#### (4) 回収可能価額の算定方法

回収可能価額は正味売却価額により測定しており、正味売却価額については不動産鑑定評価額等を基に算定しております。